

日本基督教団 東中国教区ニュース



東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒100-0005
倉敷市鶴形一五五
倉敷キリスト会館内
TEL 086-422-1780

「教区総会礼拝説教」

「種を蒔く人」

岡山聖心教会 牧師 永倉直嗣

聖書…マタイによる福音書十三章一〜九節



このたとえの
焦点にくるのは、私たちの
心の在り方では
なく、私たちを
造られた方の寛
大さです。土地の状態にとらわれず、種を
ケチらずに、良い土地、悪い土地のどこに
でも蒔いてくださるお方のお話なのです。

現代社会は、ますます、成果や結果ばかりを
求めるようになっていきます。しかも、
短期間に、すぐに答えが出ることを求めま
す。そのような社会の中に生きている私たち
もまた、成果を上げること、すぐに結果
が出ることを、良いこと、意味のあること

と考えるようになっていきます。それは、伝
道においても同じです。日本のみならず、
世界中で、教会離れ、信仰離れが深刻化し
ている昨今、この東中国教区においても、
数字だけ見ていると、不安でいっぱいにな
ります。今やっていることには意味がなく
いのではないか。このままでは教会がなく
なってしまうのではないか。そのような危
機感を募らせるのも、無理はありません。

しかし、私は全く心配しておりません。
なぜなら、教会は神様の業だから。そし
て、神様というお方は、私たちとは全く
違うお方だからです。両手いっぱい種を
パツとばら撒く農夫のように、神様は
惜しみなく、ふんだんに、いつでもどこ
でも、どんなときにも愛と恵みを注い
てくださっています。多くのことに思い
悩み、頑固で、すぐに人を裁く、実に欠
け目の多い私たちであっても、私たちの
中にある良さを信じ、結果的には百倍の
実を結ぶと信じて、愛し続けていくだ
さる。これが神様のやり方です。神様の
そのやり方にならない、イエス様もまた、

目次

「教区総会礼拝説教」	1
「議長就任挨拶」	2
「副議長就任挨拶」	3
「書記報告」	4
「お聞かせください、地区の声」	5
「転任の挨拶・新任の挨拶」	6
「青年の集い」を振り返って・編集後記	8

分け隔てなく人々に言葉語り、愛を注
がれました。そして、「あなたたちも実り
を信じて、種蒔きを手伝ってくれ」と、
おっしゃっているのです。鳥や、石ころや
茨をたくさん抱えている、欠け目の多い私
たちを招き、神様の御業の手伝いをしな
さい、恐れず福音を宣べ伝えなさい、と。た
とえすぐに結果が出なくても、成果が上が
らなくても、一見無駄に思えるようなこと
でも、百倍の実りを信じて、懂れて、その
小さな一粒の種を良い土地で育てるお手
伝いができれば、それは究極の喜びです。
さあ、これから、不器用ながら、そ
れぞれの種蒔きに励んでまいりましょ
う。私たちの小さな歩みが、いつ、どの
ような実りをもたらすのか、実際のところ
は神様しかご存じありません。でも、
それでいいのです。「必ず実を結ぶ」と約
束してくださったイエス様を信じて、常
に希望を持って歩んでまいりましょう。

「議長就任挨拶」

蕃山町教会 牧師 服部 修



第七四回定期総会において議長に選出されていたきました蕃山町

教会の服部修です。議長としては三期目を担わせていただくことになりました。皆さまの祈りに支えられて与えられた職務を全うしたいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

私自身は東中国教区に赴任して二二年目の歩みとなりました。着任当初より東中国教区が抱えていた課題に挙げられていたことは、教団の中で二番目に小さな教区に属する教会の一つが如何にして生き生きと活動し続けることができるか、ということでした。かつて教区総会においてなされた今後の教区の状況のレポートは、かなりの

衝撃をもたらしました。皆がある種の危機感を共有し、将来を展望する機会が与えられました。そこからいくつかの方策が打ち出されましたもののなかなか進展せずにおりましたところ、将来的東中国宣教に関する件が討議されるようになってから具体化の道筋が見えてきたように感じています。教会強化特別資金の改定に始まり、第七二総会にて審議し承認していただいた骨子に基づいて、皆さまの協力のもと実現可能なところから着手するところが可能になってきました。何が正解であるかは分かりませんが、これが最適解であると言い切れることもできませんが、今できる最善のことを誠実に行うことが大事なのだと実感させられています。今総会において皆さまに承認していただいた議案について、誠実に実行したいと考えていますのでご協力お願いいたします。

また、前回議長に選んでいただいた際にも述べましたが、私自身は教区

における宣教の働きを豊かにするためには、信仰告白に基づく一致が必要であると理解しています。伝えるべき福音の共通理解があるからこそ安心して協働できるわけですし、東中国教区はそのような協働が可能であると考えています。教会の伝統は異なっても、同じ福音を伝えていくという喜びに立って、これからも協働のわざに励みたいと思うのです。違いをことさらに強調し、お互いの挙げ足を取るような歩みではなく、一致していることを確認しつつそれを最大限に活かす協働を盛り上げたいと願っています。そのために議論できること、実現可能なことは、新しく選出された常置委員会と共に担いたいと思います。どれだけのことができるか分かりませんが、皆さまの祈りによって選ばれたのですから、与えられた務めに励みたいと思います。どうぞ、三役はじめ常置委員会のためにご加祷ください。

「副議長就任挨拶」

倉敷教会 牧師 中井大介



このたび東中国教区第七四総会期の副議長に選出いただきました。副議長職としては宣教部委員会「つぶやき広場」として継続的に開催される委員会を主催させて頂きます。いま東中国教区は各都委員長および各地区長を担ってくださる方々が主体的にご奉仕下さっています。各都委員会の連絡と情報共有は宣教部「つぶやき広場」が担い、各地区長の連絡と情報共有は教会強化特別資金運用特設委員会が担っています。このことは、これまで縦割り意識の強かった教区組織

が連携し合う機会を日常的に獲得したことを意味しています。たしかに組織としては何らの改変がなされたわけではありません。しかし、各都委員長および各地区長たちによって頻繁に語り合える場が育ちつつあることは、東中国教区内のそれぞれの「ご奉仕」が有機的に連携し始めていることになるのです。英語に「コンシエンス (conscience)」という言葉があります。日本語では「良心」と翻訳される言葉です。ラテン語では「コンスキエンティア (conscientia)」となります。単語を分解すると「con- (共に)」と「scio (知る)」という語根から成り立っています。この「コンシエンス」によって表現される良心とは、よりお互いを知り合う、共に理解し合っていく、という意味をもちます。私は、いま東中国教区には、このような「コンシエンス」が育ちつつあるのではないかなと思っています。どの統計、どの資料、どの報告書を見ても、それぞれが課題を持ち痛みを負っています。それと同時に、私たちの誰もが召命に応じようと姿勢を整え続けています。東中国教区にあ

るすべての教会及び祈りの群れは、それぞれに歴史的な来歴があるために各々の共同体の姿はじつに多様です。それと同時に主の招く声に応答する姿勢については非常に似通った点をいくつも見出せます。主が語りかけて下さるメッセージに對して、我々は共時的に傾聴していく機会をたくさん設けることができます。この構造により、東中国教区にある私たちはひとつであるといえるでしょう。

このたび私は東中国教区の副議長を拝命し、宣教部委員長としてのご奉仕に従事させて頂くこととなりました。この教区にはじつに素晴らしい賜物を持った方々との対話の機会に恵まれています。それだけでも大きな喜びを感じながらご奉仕させて頂けるような気がしています。これから東中国教区のさらなる宣教強化に取り組み、よく知る友と共にありつづけようとする文化が育ちゆくような働きに微力ながら尽くさせて頂きたいと存じます。

「書記報告」

鳥取信和教会 牧師 塚本 望

この度、第七四回教区総会において書記に選出されました塚本望と申します。皆様方の中には、私のことをあまりご存知でない方も少なくないのではないかと思います。

二〇二三年四月、前任の廣田崇示先生から引き継ぐ形で、鳥取信和教会の牧師として赴任させて頂きました。そしてその二年後、今度は教区書記の働きを前任の廣田崇示先生から引き継ぐ形で、任されることとなりました。

東中国教区の教会に赴任させて頂いてから、まだ二年しか経っておらず、教区のことについてわからないこともたくさんあります。そのようなまだまだ駆け出しの者が教区書記という重責の務めを果たして全う出来るのかと不安だけが募るばかりではありませんが、神様にすべてをお委ねしつつ、日々祈り心をもって担わせて頂きたいと存じます。至らぬ点多々あるとは思いますが、皆様からの暖かいご指導、ご協力、そ

して何よりも祈りをもって支えて頂ければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いします。

ご報告させて頂きます。第七四回東中国教区定期総会が五月二六・二七日に岡山県の蕃山町教会を会場に開催されました。開会礼拝では、永倉直嗣牧師（岡山聖心教会）を通して御言葉が語られ、山田邦彦牧師（和気・三石教会）によって聖餐式が執り行われました。また二日目には、藤田和也伝道師（岡山教会）の准允式が服部修議長（蕃山町教会）の司式によって執り行われました。「将来的東中国教区宣教に関する件」については、骨子③「宣教を担う部署の設置」、および④「委員会全体を通して予算をサポートする費目および部署の設置」について、二年後の第七六回教区総会までに実行案が提案されることが、目標として掲げられました。

尚、今総会において、教区三役・常置委員改選選挙が行われ、下記の通り決まりました。教区の働きのために、常置委員会のためにお祈り下さい。

記



議長 服部 修（蕃山町教会）

副議長 中井大介（倉敷教会）

書記 塚本 望（鳥取信和教会）

教師常置委員

廣田和浩（岡山教会）

三浦きょうこ（玉島教会）

宮本裕子（久世教会）

信徒常置委員

河田直子（蕃山町教会）

土井しのぶ（総社教会）

平川英勝（児島教会）

宮脇俊昭（倉敷教会）

以上

「お聞かせください、地区の声」

今回は「鳥取県西部地区」です！

鳥取県西部地区

境港教会 中道 祐太

「隣の教会の牧師館のお風呂が壊れているかどうかまで知らなければいけない」

皆さんはこの言葉を聞いたことがあるでしょうか？これは以前、関西学院大学神学部で学生をしていた時に「教会に赴任した際（特に地方）、おさえないといけない事」としてある教授から教わった事の一つであります。地方になればなるほど隣の教会との交流や情報交換などが物理的にも難しくなるので出身大学や群れの流れに関わらず密接な関係を持たなければ、教会運営も牧会もやっていくことが難しいということです。だからといって、毎日電話でお風呂の状況を確認しなさいと言うことではありません。けれども、それだけ隣の教会を気にかける必要があるということです。

現在、鳥取県西部地区には米子教会、米

子錦町教会、倉吉教会、倉吉上井教会、境港教会、西伯法勝寺教会、日野教会の七教会が属しています。そして、それぞれの歴史や流れを持っています。今そんな鳥取県西部地区は「隣の教会のお風呂」について把握しきれていないのが現状であるといえます。それぞれの教会の課題、最近あったうれしかったこと、つらかったこと、それらをどれだけお互いに知っているのかと問われれば怪しいところです。その原因は地区における交流の減少にあるかと考えられます。

そこで、地区としては昨年度から「地区礼拝」という新たな試みを始めています。それはまだ主日礼拝に代わる礼拝ではありませんが、皆で地区内の教会を順番に集まりながら祈りと賛美と証しを中心とした固定された式次第を用いています。そして、その式次第が「自分たちの地区の式次第である」という認識を持つことで、やがて来るかもしれない合同、もしくは同時礼拝に行うときに、あるいは信徒のみで礼拝に預かる際に「あっちの式次第」「こっちの

順番」ではなく、「私たちの式次第」を用いるということが可能になると考えています。また、その礼拝が消極的な目的のみならず、私たちの交流をより深めさせてくれる積極的な交わりであることを期待し、「隣の教会のお風呂だけではなくトイレや冷蔵庫までも」わかり合えるように互いのことを覚えつつ歩んでいます。



東中国教区の各地区の様子を広く知っていただくために『お聞かせください、地区の声』を連載しています。互いに知り、互いに祈り支えていく歩みの一助となればと願っております。

（ニュース誌委員会）

「転任の挨拶」

(前倉吉上井教会 牧師)

岩内教会 牧師 葛井 義顕



二〇二四年度末をもつて倉吉上井教会、鳥取教会代務を辞任し、四月一日より北海教区後

志地区の岩内教会に赴任しました葛井義顕です。東中国教区では多くの方々に支えられて、主に在る豊かな交わりを持たせて頂き、心から感謝しております。北海道の豊かな自然に抱かれて、教員、幼稚園の皆さんと共に歩める喜びを日々実感しております。岩内教会は今年で創立一三四周年、認定こども園岩内幼稚園は来年創立一〇〇周年を迎えます。この歴史ある地で先達たちの果たしてこられた役割を受け継ぎ、福音宣教に邁進したいと思います。

(前天城教会・琴浦教会 牧師)

彦根教会 牧師 吉田 慈

大好きな岡山を離れ、温暖な気候の瀬戸内から比べると、こちらでは冬を引きずる

ような寒さからのスタートでした。岡山では、平日は別の仕事に出、なかなか教区の皆さんとお出合いする機会はありませんでしたが、そんな中でも、たくさんのお出合いと縁に育まれ、「4教会合同礼拝」(天城・琴浦・玉島・笠岡)やユネスコ協会の「平和の鐘を鳴らそう」やミュージカル「幸福の王子」、また会社・工場訪問、土木・建築工事含め、たくさんの方の経験を積むことが出来ました。本当に感謝でした。沖縄教区につぐ、小さな教区、の、小さな教会での歩みではありましたが、神さまが何とか歴史を紡ぐべく、用いて下さった、目を留めて下さったのだと思います。全てに感謝をしつつ、そんな神の変わらない眼差しが、東中国教区の一つひとつの教会に注がれ続けている事を信じ、祈ります。



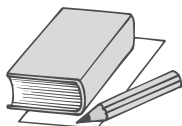
「新任の挨拶」

笠岡教会 牧師 加藤 隆



四月から笠岡教会に遣わされました加藤隆(かとうたかし)と申します。

二〇二三年に蕃山町教会に遣わされてから三年間、教区のみなさまには大変お世話になりました。そして今年からも引き続きみなさまにお世話になります。とてもうれしいです。蕃山町教会の時とはまた違った忙しさや大変さ、同じように楽しさ、嬉しさを感じています。それらすべてを神さまの恵みであるとその恵みをかみしめつつ、笠岡の地で一日一日、神さまに、教会に、みなさまに仕えていきたいと願っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



蕃山町教会 副牧師 加藤 英徳



三月に西東京教区八王子教会を辞し、今年度から蕃山町教会に着任いたしました加藤英徳です。

一九九九年に東京神学大学での学びを終えた後、東海教区を出発点に東北教区、四国教区、東京教区、そして西東京教区で過ごして参りました。これまでを振り返ってみると山あり谷ありで一つの場所に中々根付くことができておりませんが、それでも用いてくださる神様に感謝しながら日々過ごしています。今後とも皆様どうぞよろしくお願いいたします。家族構成は妻と子供二人です。

米子教会 牧師 武石 晃正



生まれも育ちも東北地方は宮城県仙台市でありまして、横浜生まれの妻とともに初めて西日

本へ参りました。上京したのは赤羽教会、その後は前任地である栃木県に五年ほどおりました。海のない県から弓浜海岸と中海に臨む米子へ招かれましたので、「人間をとる漁師にしよう」と主の招く声を聞いたような思いがいたします。国の東西で勝手も違い、日野教会の代務者としても戸惑いながら進めております。先生方また皆さまにお知恵とお力をお借りしつつ、教区に教会にとお伝えしたいと願います。

天城教会 牧師 床次 隆志 琴浦教会



ただいま帰りました。というのも、私は二〇〇九年から三年間、岡山教会で担任教師をさせて

て頂いたからです。当時、住まいのある山崎伝道所（岡山市中区）から、毎日、岡山教会に通勤していました。当初、通勤手段は原付バイクでしたが、岡山で高級外車を購入し、乗り換えました。イタリア製の自転車です。以来、神戸、横浜、名古屋、大阪で高級外車を乗り回してきましたが、まさか再び岡山で乗るとは思っていました。

せんでした。不思議な導きを感じると共に、ふと十五年前と比べ、自分は成長したのだろうかと思いました。よろしく願います。

岡山教会 伝道師 藤田 和也



今年度より岡山教会に伝道師としてお仕えしております。昨年度までは京都の同志社教会で

神学生をしながら、中学校と高校で聖書科の嘱託講師をしておりました。神学校に入學するまでは神奈川に住んでおりましたので、岡山は初めての土地です。これまで何人もの伝道師を育ててこられた岡山教会にお招きいただいたことに緊張を覚えつつ、その伝統に連なる者となったことを、喜びをもって受け止めております。岡山教会での任期は三年と短いですが、与えられた賜物を生かして、教会に仕え、教区に仕えてまいります。今後ともお交わりのほどよろしくお願いいたします。

宣教部教育委員会主催

「青年の集い」を振り返って

鳥取教会 松田 隆平

第二回青年の集いは五月三〇日(金) 三一日(土)に開催されました。「新庄村・毛無山麓の自然に囲まれて、創世記の物語を聴いて語らい、わたしと仲間に出会う二日間」と題された今回の集いは、子どもの頃より生き物、自然が好きな私にとって非常に心惹かれる内容でした。

アメリカ留学中に訪れたコスタリカの自然・人に感動し、似た雰囲気を感じて新庄村に移住してサルナシのブランド化に取り組まれている臼井崇来人さん。紫やピンクなど色とりどりのルピナスが咲き誇るルピナス・ヴァレーの管理人であり、自然観察会の案内人や環境保全活動にも注力されて



ルピナス・ヴァレーにて

いる森本潤太さん。お二人のゲストティーチャー、両ご家族との語らい、交わりはとても心温まる時間でした。そしてお二人が新庄村の自然・人々を愛し、新庄村がより良くなるように日々ご尽力されているお姿は、まさに「神様の遣わされた場所で生きる」ことを体現されており、感銘を受けました。

毛無山登山をした二日目では、前日までの予報では雨だったのが嘘のように晴れ、清々しい朝を迎えることができました。神様がこの日のために天気をも整えて下さったことに感謝でした。毛無山のササ藪とブナの大木からなる深い森では、木々を揺らす風、オオルリやウグイスなど鳥たちの美しいさえずりが心地よく、標高一二一九メートルの山頂からは、北に大山と日本海、南に新庄村と見渡す限りの山々が一望できました。眼下に見える町を包み込むような空・海・山の自然の雄大さから、私たちは神様が創造された世界・自然の恵みの豊かさを感じました。

この集いを振り返ってみて、普段何気なく見ていた自然から、神様の創造の御手をより感じたのは、信仰を同じくする皆様との交わりがあつてこそ強められたものだったと思います。この集いがこれからも鳥取と岡山の青年の交わりの機会となり、神様に祝されるものとなりますよう祈ります。



山頂到達隊、絶景！

編集後記

これほど安易に国家間の戦争が実行されるのかと、昨今の世界情勢を深く憂慮せざるをえません。「あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。」と語られた主の御言葉を堅持し、主にある平和を祈り求めて歩みたいと切に願います。

(W)

★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
イイミミット ハナソウ
電話番号 〇九〇ー一三三〇ー八七三〇